

# 高純度のペレット状原料に

産廃処理工場が立ち並ぶ愛知県飛鳥村に、アルミやスチールの飲料用空き缶をほぼ一〇〇%の高純度原料に再生できる処理工場がある。運営するのは、自動販売機の設置管理業タケシヨウ（本社半田市、竹内久祥社長）の完全子会社、クレス名古屋（本社名古屋、竹内久祥社長）と、工場見学に出す再生原料の質の高さに業界が驚きの声を上げた。事業化から六年、「ぎりぎりの経営状態」で、二年前にようやく単年度黒字を果たしたと、竹内社長は事業を軌道に乗せるまでの苦労を振り返るが、事業を続けてきたのは「消費者に知ってほしい事実があるから」の思いがあるからと、二〇〇〇年当時、同社がアルミやスチールなどの飲料缶を自社開発のプラントシステム

## クレス名古屋



竹内久祥社長

で高純度のペレット状原料に戻す。ペレットは再び飲料缶となり、また自動車部品や冷却材など用途の幅を一気に広げた。

### 販売者責任

同社がこの事業化に乗り出したのは、取引先か

## 空き缶、ペットボトルを再生処理



リサイクルできるものとそうでないものは手作業での分別も行われる

ら空き缶の処理方法について質問を受けたことがきっかけ。「販売者側にも（空き缶の）処理責任があるのではないか」。竹内社長は、複数の同業者と共同で事業立ち上げを検討したが、採算面の難しさから降りる会社が続出し、結局、単独事業を決意した。

空き缶（びん）処理にわざわざお金を払う人がいるものか、と思われていた頃。実際、費用がかかるならタダで引き取るどころへ持っていくといふ声が多く、空き缶が集まらなかった。当時、竹内社長は売上高の内訳を六、七割が処理手数料、三、四割が再生原料の販

売と試算していたため「本当に敵しかった」と当時を振り返る。

最近では空港、ホテル、工場、商業施設などから多くの空き缶が集まるようになった。子供会が集めた空き缶を引き取ることもある。自社所有と提携業者のトラック三十台が毎日空き缶、空き瓶、ペットボトルを運び込む。処理量はスチール、アルミが合計月間三百が毎日空き缶、空き瓶、ペットボトルを運び込む。処理量はスチール、アルミが合計月間三百

ラインでは六十歳代の作業員がすばい手つきで容器を分別する。作業員は休憩時間になると、運び込まれたペットボトルは休憩時間になると、運び込まれたペットボトル

環境省がこのほど発表した「ごみ（一般廃棄物）の総排出量は五千五十九万ト、このうち再生利用量はわずかに九百四十万トにすぎない。空き缶、ペットボトルは再生できる貴重な資源。効率的な原料化を進めるため、消費者もリサイクルしやすい状態で捨てる責任がある。何気なく捨てたゴミのつもりでも、生まれ変わるには、これほど多くの工程を踏むことを知って欲しい」と竹内社長。工場を見学した人は、認識を改めて帰っていくという。

（半田）

### メモ

本社（実質本社・工場）愛知県海部郡飛鳥村木場2ノ1111  
 ▼電話 0567-553302  
 3▼売上高 5億円（06年12月期見込み）▼従業員数 29人